

鶴見区は区制50周年!!

区民のみなさんとともに発展してきた

鶴見区×の歴史

鶴見区誕生以前



現在鶴見区があるこのエリアには、かつて井路(いじ:人工水路)が数多く存在。水田や、特産品であるレンコン畑等の農業用水として利用される一方、船で人や物を運ぶのにも大いに活用されていました。



1975年(昭和50年)

第1回鶴見区民まつり開催

今年10月で第50回を数える鶴見区民まつりは、ここから始まりました。

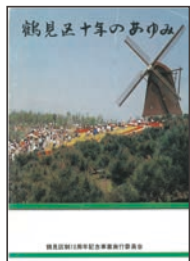
1981年(昭和56年)

大阪内環状線が全通

1984年(昭和59年)

区制10周年

鶴見区誕生から10周年を記念して制作された「鶴見音頭」は、今も区民の皆さんに踊り親しまれています。



10周年記念冊子



1987年(昭和62年)

「区の花」を制定

約8,200通の応募の中から、まず「ハナミズキ」と「チューリップ」が決定し、その後「ツバキ」と「ニチニチソウ」が追加選定されました。そして翌年、この4つの花を鶴見緑地の風車の羽根になぞらえたイラストデザインも決まりました。



1990年(平成2年)

地下鉄鶴見緑地線(鶴見緑地駅-京橋駅間)開業



この年の3月に、花の万博の開催に合わせて鶴見緑地線(現在は延伸に伴い、長堀鶴見緑地線)が開業しました。

写真協力/Osaka Metro

1972年(昭和47年)

鶴見緑地の一部造成が完成

1941(昭和16)年に、都市基幹公園として整備が始まった鶴見緑地。大戦を経た1972(昭和47)年、「市民園芸村」「大芝生」など、阪神甲子園球場3つぶんにあたる11.8ヘクタールが完成しました。

1974年(昭和49年)

鶴見区誕生

1943(昭和18)年に、東成区の一部と旭区の一部を併せて分区した城東区。1974(昭和49)年7月22日、この城東区から分区する形で鶴見区が生まれました。



完成した鶴見区役所庁舎(昭和49年)

1983年(昭和58年)

鶴見緑地の造成進む

この年の4月に造成された鶴見緑地の山の名称が「鶴見新山」に決定。標高39mながら、人工の山としては大阪市最高峰となります。なお同年、「世界の森」「子どもの森」が開設されました。



1985年(昭和60年)

「国際花と緑の博覧会」開催決定

この年の12月、パリにある博覧会国際事務局にて、1990年に鶴見区で国際博覧会を開催することが決定しました。

1989年(平成元年)

区制15周年(大阪市制100周年)

大阪市制100周年に合わせて区制15周年をお祝いしました。



1990年(平成2年)

花博通(都島茨田線)開通、鶴見通(東野田茨田線)拡幅整備

